

第3章 市民の教育と文化

3-1 学校教育

1 幼児教育

●基本方針

変化の激しい時代の中で、健全な人間関係を築きながらたくましく生きるため、子どもに生きる力を育みます。

自らを律しつつ他を思いやる心、自他の生命を大切にし人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心、公共のためにつくそうとする心など、豊かな人間性を育む心の教育の充実をはかります。

●現状と課題

少子化、核家族化などにより、幼児が集団生活の中でさまざまな体験をする機会が少なくなっているとともに、近隣に子育てなどについて相談できる友人がいないなど、育児に不安を抱く保護者が増えています。

このような状況から、幼稚園は、幼児の自然体験・社会体験などの生活体験を豊かにするとともに、保護者のもつ子育てへの不安に対応するため、地域における幼児教育のセンターとして積極的に子育てを支援していくなど、「親と子の育ちの場」としての役割を果たす必要があります。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
友だちとふれあい楽しく幼稚園生活を送っている園児の割合	68% (15 年度)	71%	74%	教 育 委 員 会
数値目標設定の考え方： 市立幼稚園において自然体験・社会体験活動を充実し、楽しく園生活を送る園児の割合を高める。				
幼稚園が子育て支援の場として有意義であると感じている親の割合	69% (15 年度)	72%	75%	教 育 委 員 会
数値目標設定の考え方： 子育て支援事業の充実により、幼稚園が子育て支援の場となるようにする。				

●事業計画

事業名	事業内容	現況（⑮末見込み）	計画目標 [⑯～⑳の事業量等]	所管局
体験活動の充実	豊かな人間性が子どもたちに育まれるよう、市立幼稚園において、劇団などを招いての芸術鑑賞や自然体験・社会体験活動を実施	芸術鑑賞 各園隔年実施	芸術鑑賞、自然体験・社会体験活動 各園毎年実施	教育委員会

子育て支援 事業の充実	市立幼稚園において、園 舎・園庭の開放や子育て相 談などを実施	全園で実施	全園で実施	教 育 委 員 会
	私立幼稚園が実施する子育 て相談などの子育て支援事 業に対し補助を実施	実施園数 89 園	実施園数 106 園	

2 小中学校教育

●基本方針

変化の激しい時代の中で、健全な人間関係を築きながらたくましく生きるため、子どもに生きる力を育みます。

自らを律しつつ他を思いやる心、自他の生命を大切にし人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心、公共のためにつくそうとする心など、豊かな人間性を育む心の教育の充実をはかります。

基礎・基本を確実に習得させるとともに、多様でゆとりある教育活動を展開し、一人ひとりが持つさまざまなよさや可能性の伸長をはかります。

体験的な学習、問題解決的な学習への取り組みをすすめて、自ら学び自ら考える力を育みます。

すすんで体力づくりに取り組み、生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎を養います。

家庭や地域との連携を深めつつ、各学校の創意工夫を生かして、特色ある学校づくり、地域に開かれた学校づくりの実現につとめます。

国際化、高度情報化など、新しい時代の潮流に的確に対応することのできる能力の育成をはかります。

子どもたちの学ぶ意欲の向上や多様な学習活動の展開をはかるため、教育環境を整えるとともに、地域開放や安全、環境などに配慮した学校施設の整備をすすめます。

●現状と課題

本市では、学校・家庭・地域社会が一体となり、将来を担う子どもたちを育てることをめざし、平成 14 年度から「教育改革プログラム」を策定し、その実現に取り組んでいます。

小中学校教育においては、基礎・基本の定着を改革の柱の 1 つとして、小学校 1 年生の 30 人学級を全校で実施するなど、各種事業を展開してきました。平成 14 年 7 月に実施した「学習と生活についてのアンケート調査」においても、小学生、中学生の保護者ともに、身につけてほしい学力として、「読む・計算するなどの基礎的な学力」、「自分で考える力」、「学ぶことへのやる気・意欲」をあげています。今後も、基礎・基本の定着度を把握しつつ、学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を高めるなど、確かな学力の向上を一層推進していく必要があります。

また、「愛・地球博」の開催を好機ととらえ、博覧会参加国の人々との交流などを通して、子どもたちの国際感覚を養うとともに、環境問題へ主体的に取り組む姿勢を身に付けさせるなど、国際化や環境問題など社会の変化や課題に対応した教育を推進していく必要があります。

さらに、本市の子どもたちは、20 年前と比較して、体格はよくなっていますが、体力は低下傾向にあります。

「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成が課題となっています。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
学校の授業がわかると思う小中学生の割合	68% (15 年度)	71%	74%	教育委員会
数値目標設定の考え方： 基礎・基本の定着をめざした学習指導により、授業がわかる小中学生の割合を高める。				
学校生活が楽しいと思う小中学生の割合	80% (15 年度)	82%	84%	教育委員会
数値目標設定の考え方： 特色ある教育の推進により、学校生活が楽しいと思う小中学生の割合を高める。				

●事業計画

事業名	事業内容	現況（⑮末見込み）	計画目標 [⑯～⑳の事業量等]	所管局
英語が話せるなごやっ子の育成（新規）	子どもたちの英会話能力を向上させるため、授業やトワイライトスクールにおいて英会話指導を実施	中学校 外国人英語講師による巡回指導 1 学級年 7 時間 小学校 英語活動アシスタントによる指導	中学校 外国人英語講師を全校に配置し、指導 1 学級年 35 時間 小学校 外国人英語講師や英語活動アシスタントによる指導 トワイライトスクールでの指導	教育委員会
学力向上パイロット事業の推進	基礎・基本の確実な定着をはかり、確かな学力の向上に資するため、毎年 16 校を研究校として指定し、2 年間かけて創意工夫を生かした教科指導や教育活動の展開などの実践研究を実施	実施 16 校	実施 [48 校]	教育委員会
教科担任制の実施	小学校高学年を中心に、基礎・基本の確実な定着をはかるとともに、発展的な学習をすすめるため、教科担任制を実施	実施	拡充実施	教育委員会
学習状況調査の実施	学習指導方法の工夫・改善に役立てるため、小学校 5 年生および中学校 2 年生を対象に学習状況調査を実施	実施	実施	教育委員会

マイスクールプランの実施	総合的な学習の時間を中心に、既存の教科の枠を越えた国際理解、環境、健康・福祉、地域の伝統文化などの学習やさまざまな体験活動など、特色ある教育活動を展開	実施	拡充実施	教育委員会
ふれあいフレンドの推進	子どもたちが良好な人間関係を築くことの喜びを感じ、人と人とのふれあいの輪が広がるようにするため、小学校に、子どもたちの気軽な遊び相手などとなる大学生などのボランティアを派遣	試行実施 16 校	実施 64 校	教育委員会
元気いっぱいなごやっ子の育成 (新規)	児童・生徒一人ひとりについての体力・運動能力に関する個票を活用するほか、体力アップ推進校の設定により、児童・生徒の体力づくりを促進 食生活学習教材を用いた食生活指導を充実するほか、小学校において、学校栄養職員による巡回食生活指導を実施	体力・運動能力プロフィールソフトの作成検討 — 食生活学習教材を用いた指導 小学校 5 年生 —	体力・運動能力プロフィールソフトの作成、活用 体力アップ推進校 累計 30 校 食生活学習教材を用いた指導 小学校 1・5 年生、中学校 1 年生 学校栄養職員による巡回食生活指導の実施	教育委員会
「愛・地球博」国際交流の実施 (新規)	愛・地球博を子どもたちが豊かな国際感覚を身につける機会として、各学校が交流国を設定し、交流を実施	愛・地球博参加国に関する調べ学習、学校紹介資料の作成など	交流国に関する調べ学習、交流会の開催など	教育委員会
学校規模の適正化	児童・生徒数の将来にわたる見通しをふまえ、30 学級を超える過大規模校の解消をはかるため、分離新設校を設置 児童・生徒数の減少が著しい小規模校について、一定規模を確保するため、地域に検討する場を設定	中学校 建設 1 校 地域との調整	中学校 開校 1 校 小学校 建設 2 校 推進組織の設置	教育委員会

新たな教育システムの検討（新規）	社会の変化や多様化するニーズに対応した魅力ある学校づくりのため、小中一貫教育および中高一貫教育について検討	—	教育課程などの研究	教育委員会
------------------	---	---	-----------	-------

3 高等学校教育

●基本方針

変化の激しい時代の中で、健全な人間関係を築きながらたくましく生きるため、子どもに生きる力を育みます。

基礎・基本を確実に習得させるとともに、多様でゆとりある教育活動を展開し、一人ひとりが持つさまざまなよさや可能性の伸長をはかります。

体験的な学習、問題解決的な学習への取り組みをすすめ、自ら学び自ら考える力を育みます。

家庭や地域との連携を深めつつ、各学校の創意工夫を生かして、特色ある学校づくり、地域に開かれた学校づくりの実現につとめます。

国際化、高度情報化など、新しい時代の潮流に的確に対応することのできる能力の育成をはかります。

●現状と課題

平成 15 年度に市立高等学校の生徒を対象に実施した調査によると、学校生活が充実していると思う生徒の割合は 66%となっています。産業構造の変化、国際化、情報化、少子高齢化など、学校を取り巻く社会の状況の変化にともない、生徒の生活実態や学習環境も変容し、生徒の興味・関心、進路希望などがますます多様化してきています。

このような状況をふまえ、生徒一人ひとりがゆとりの中で生きる力を育み、個性や能力を伸ばすことができるよう、生徒や社会のニーズに対応した魅力ある学校づくりが求められています。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
学校生活が充実していると思う高校生の割合	66% (15 年度)	68%	70%	教育 委 員 会
数値目標設定の考え方： 魅力ある学校づくりにより、学校生活の充実度を高める。				

●事業計画

事業名	事業内容	現況 (⑮末見込み)	計画目標 [⑯~⑳の事業量等]	所管局
学力向上促進事業 (新規)	基礎・基本の確実な定着をはかり、確かな学力の向上に資するため、指導方法、指導体制などの実践的な研究を実施	—	実施 年 2 校	教育委員会
総合学科の開設 (新規)	西陵商業高等学校の改編により、生徒が自らの進路を考え、希望に応じて学びたい科目を選択できる総合学科を平成 17 年度に開設	検討	開設	教育委員会

定時制高等学校の再編 (新規)	生徒や保護者のニーズに応え、社会の変化に対応した魅力ある定時制高等学校にするため、中央高等学校定時制課程（昼間）の拡充など、定時制高等学校の再編を平成 17 年度に実施	昼間定時制 募集 2 学級 夜間定時制 募集 6 学級	昼間定時制 募集 4 学級 夜間定時制 募集 4 学級	教育委員会
--------------------	--	--	--	-------

4 障害児教育

●基本方針

変化の激しい時代の中で、健全な人間関係を築きながらたくましく生きるため、子どもに生きる力を育みます。

障害のある児童・生徒が、障害の種類や程度に応じて適切な教育を受けることができるよう、やさしさとぬくもりを大切にした障害児教育をすすめます。

子どもたちの学ぶ意欲の向上や多様な学習活動の展開をはかるため、教育環境を整えるとともに、地域開放や安全、環境などに配慮した学校施設の整備をすすめます。

●現状と課題

障害のある子どもの教育をめぐるのは、近年のノーマライゼーション※1の進展や障害の重度・重複化および多様化の中で、児童・生徒や保護者の教育に対するニーズの高まりのほか、地域の実情をふまえた学校や地域づくりなど、さまざまな状況の変化が見られます。

このような状況の下、今後ますます、一人ひとりの教育的ニーズをふまえて適切な教育を行うための事業を充実させる必要があります。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
社会的自立をするために必要な力を身につけている障害児の割合	62% (15 年度)	64%	66%	教育委員会
数値目標設定の考え方： 義務教育終了時において、独りで電車に乗れるなど社会的自立をするために必要な力を身につけている障害児の割合を高める。				

●事業計画

事業名	事業内容	現況（⑮末見込み）	計画目標 [⑯～⑳の事業量等]	所管局
特別な教育的ニーズに応じた教育の推進 (新規)	障害のある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援のあり方を検討	—	教育的支援のあり方の方針決定	教育委員会
	校内における体制づくりや研修、関係機関や保護者などとの連絡調整などを担当する教員を養成	—	養成 300 人	

※1 ノーマライゼーション

障害者や高齢者など社会的に不利を負う人々を当然に包含するのが通常の社会であり、そのあるがままの姿で他の人々と同等の権利を享受できるようにするという考え方。

養護学校高等部の充実	高等部への進学希望の増加に対応するため、募集学級増を実施 障害の種類や程度に応じたきめ細かい教育を実施するため、高等部に重複障害学級※2を設置	募集 12 学級 —	募集 14 学級 全校に設置	教育委員会
南養護学校の移転改築	障害児の学習環境を整備するため、南養護学校を移転改築	実施設計	移転、開校	教育委員会

※2 **重複障害学級**

知的障害児を対象とした養護学校の小学部および中学部に既設されており、主障害である知的障害の程度が重く、かつ視覚障害や病弱などの障害がある児童・生徒のための学級。

5 市立大学

●基本方針

市立大学が、学術・文化の中心としてより地域に貢献することができるよう、教育・研究体制を充実するとともに、地域に開かれた大学をめざします。

●現状と課題

18 歳人口減少による大学全入時代の到来や、平成 16 年 4 月の国立大学の独立行政法人化など、市立大学を取り巻く環境はかつてなく厳しいものがあります。このため、独立行政法人化の検討を含め、これまで以上に理念や目標を明確にした上で特色ある教育・研究をさらに推進するとともに、地域貢献や産学官等との連携などにより存在感のある大学、競争力を持った大学づくりが求められています。

●数値目標

	現状値	18 年度目標値	22 年度目標値	所管局
市立大学における大学院学生 在籍者のうち社会人受入数	77 人 (15 年度)	135 人	150 人	市立大学
数値目標設定の考え方： 研究科専攻の再編・受入枠の拡大などを通じて、社会人 学生受入数の増加をめざす。				
市立大学における共同研究の 受入件数	—	3 件	7 件	市立大学
数値目標設定の考え方： 産学官連携の推進により、民間企業などとの共同研究の 受入件数を増やす。				

●事業計画

事業名	事業内容	現況（⑮末見込み）	計画目標 [⑯～⑳の事業量等]	所管局
大学院経済 学研究科の 再編・拡充	社会人を対象とした日本経済・経営専攻への博士後期課程の設置にあわせて経済学研究科の再編・拡充を実施	調査・検討	再編・拡充	市立大学
大学院看護 学研究科博 士課程の設 置（新規）	看護学研究科に博士課程を設置	調査	設置・受入	市立大学
研究活動に おける企業 等との連携	民間企業などと多角的に連携し、研究成果の移転・活用を推進	共同研究・寄附講座・職務発明の各 規程の整備 —	共同研究の受入 [受入件数 6 件] 大学連携型起業 家育成施設整備 事業への参加	市立大学

薬学部校舎 の改築	高度な教育・研究に対応で きるよう、老朽・狭あい化 した薬学部校舎を改築	検討	実施設計	市立大 学
留学生宿舎 の設置 (新規)	旧看護婦寮を改修し、留学 生宿舎を設置	調整	整備・開設	市立大 学